

●ハタハタ再生【秋田県】

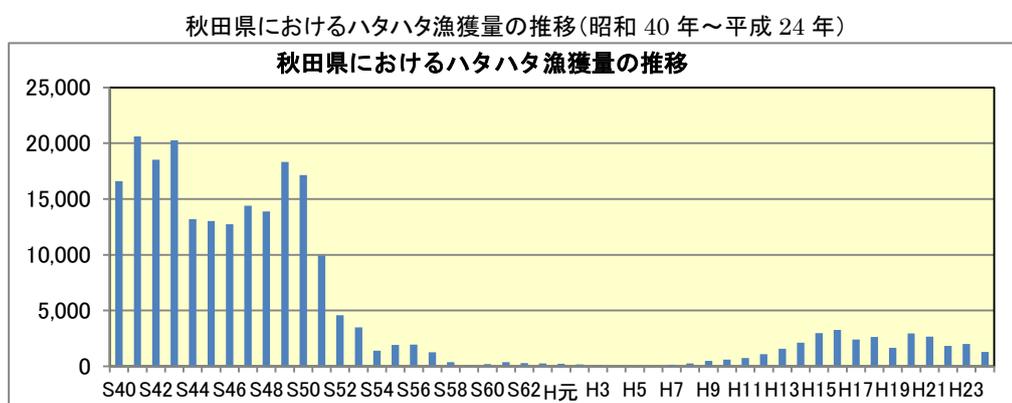
【経緯】

ハタハタは、秋田県民にとってなくてはならない魚であり、秋田の食文化と密着した特殊な地位を占めています。

昭和 40 年代までは秋田県において大量に水揚げされ、最盛期には 15,000 トンを超える漁獲量がありましたが、乱獲などにより、1976 年（昭和 51 年）以降は急激に漁獲量が減ったため、1992 年（平成 4 年）9 月から 1995 年（平成 7 年）8 月まで全面禁漁が施行されました。このようなハタハタの激減に直面した漁業者は、資源の回復を目指して 1999 年（平成 11 年）から、青森・秋田・山形・新潟の 4 県間で、全長 15cm 未満の個体の採捕をしないことを取り決めました。

その他、漁協や警察等による密漁のパトロールや様々な資源対策が実施されています。

以下に、秋田県におけるハタハタの漁獲量の推移を紹介します。



【主な活動主体】

- ・ 県の漁業協同組合
- ・ 水産試験場

【活動状況・成果】

ハタハタは、スギモク、アカモクなどのホンダワラ類の茎に卵塊を産み付けます。ハタハタにとってホンダワラ類の藻場は非常に重要な役割を持っているのです。

秋田県内の一部の海域では藻場が著しく減少している地区が見られるようになってきました。このため、天然の藻場の周辺にブロックを投入したり、投入したブロックに人口採苗した種糸を巻きつける方法などにより人口藻場の造成も行っています。



ハタハタの卵塊の様子